

残草量の風乾重が生草重の別。どちらかを○で囲む。

略す場合は、下記の通り記入する。  
 一年生イネ科:一イネ, 一年生非イネ科:一非,  
 多年生イネ科:多イネ, 多年生非イネ科:多非,  
 その他:他

薬剤名	試験圃場所	試験条件	使用量 g/10a (水基%)	除草効果								効果の期間	症状	程度	収量 対完全 除草区比	総合 評点	判定	所見																																										
				残草量(対無除草区比)																																																								
				生・乾	一年生イネ科				一年生非イネ科				効果最大	抑草期間			完全 除草区 457		効果の 高い 草種	効果の 低い 草種																																								
					北洲	北洲	I/30 クサ	スアリ ヒ	30サ	171	他	総計													kg/10a																																			
ABC-123 乳	〇〇県園芸試験場 場内圃場	作物(品種):	※※※(※※※)	200ml <50L> 200ml <100L> 400ml <50L> 500ml <100L>	206本	13本	7本	77本	15本	3本	5本	326本	20	無	無	101%	A0	○	北洲、北洲、I/30クサ、スアリヒ、30サ																																									
		土壌条件:	洪積埴壤土		128g	3g	2g	38g	6g	0.3g	0.2g	177.5g									30	草丈抑制	微	97	A0	○																																		
		栽培法(作型):	春播 露地移植		6	3	0	1	8	3	35	9																	35	生育遅延、黄化	小	97	B1	△																										
		耕起日:	H**年 6月 21日		5	0	0	0	6	2	19	5																									30	無	無	98	A0	↑																		
		播種期:	播種 H**/6/2		0	0	0	0	0	0	1	t																																	30	無	無	98	A0	↑										
		定植期:	定植 H**/6/25		0	0	0	0	0	0	1	t																																									30	無	無	98	A0	↑		
		処理日:	H**年 6月 22日		0	0	0	0	0	0	1	t																																																
雑草調査日:	7月 30日 (38日後)	0	0	0	0	0	0	1	t	30	無	無	98	A0	↑																																													
収量調査日:	H**年 9月 3~17日	0	0	0	0	0	0	1	t									30	無	無	98	A0	↑																																					
処理方法・処理時の状況	対DEF乳剤	0	0	0	0	1	2	17	t																	30	無	無	98	A0	↑																													
土壤処理(全面)	定植前 雑草発生前	0	0	0	0	1	2	17	t																									30	無	無	98	A0	↑																					

200ml では効果高く、薬害軽微。  
 400ml では生育抑制の回復が遅く、減収した。  
 200ml<50~100L>で実用化可能だが、400mlの薬害についてはさらに検討を要する。

**\* 注意 \***  
 斜線部分は印刷されません。  
 書き込まないで下さい。  
 縦罫線は、ずらさないで下さい。

処理後の日数を記入  
 残草量の無処理区対比% (整数)で表示する

散布水量を明記する

薬害程度		評点基準		実用性の判定	
薬害程度	基準	評点	薬害程度	残草量の無処理区対比(%)	判定
無	薬害は認められない	A0	無, 微	0 ~ 10	○ 実用性有りとは判断されるもの
微	葉枯れ、茎葉の変色、生育抑制等が僅かに認められるが、収量に影響はない。	A1	無, 微	11 ~ 20	△ 問題点があり、さらに検討が必要なもの
小	葉枯れ、茎葉の変色、生育抑制等の薬害症状が明らかに認められるが、回復し収量への影響がないもの。	B0	無, 微	21 ~ 40	×
中	葉枯れ、茎葉の変色、生育抑制等が著しく、収量への影響が大きいもの。	B1	小	0 ~ 10	実用性がないと考えられるもの
大	枯死又は生育停止、回復の見込みのないもの。	C0	無, 微	41 ~ 60	— 気象条件等により判断できないもの
		C1	小	11 ~ 20	
		D	その他		

野菜・花き関係 除草剤 成績概要用紙 (薬害試験)

薬剤名	試験圃場所	試験条件	使用量 製品 g/ml/10a (水量L)	作物調査 (発芽率、草丈、葉数、品質等)								薬害		収量 対完全 除草区比 kg/10a	総合 評点	判定	所見
				調査日	株立ち率	草丈	根重	完全除草	無	程度	無						
DEF-456液	〇〇県園芸試験場 場内圃場	作物(品種): <b>※※※(※※※)</b>	調査日	H20/10/4(+37)	H20/10/4(+63)									元全 除草区 1881 kg/10a			・播種直前処理薬害 ・通常量、倍量区ともに作物 に対する薬剤の影響はみられ なかった。
		土壌条件: <b>沖積砂壤土</b>	調査項目	株立ち率		草丈	根重										
		栽培法・作型: <b>夏播 露地直播</b>	完全除草	73.7%		27.7cm	49g										
		耕起日: <b>H20年 8月 25日</b>	500mL <25L>	71.0		28.9	42						無	無	110%		
		播種期: <b>播種 H20/8/28</b>	1000mL <25L>	70.2		27.2	43						無	無	99		
		定植期: <b>H20年 8月 28日</b>															
		処理日: <b>H20年 8月 28日</b>															
		収量調査日: <b>H20年 12月 6日</b>															
		処理方法・処理時の状況 <b>播種直前 土壌処理(全面) 少水量散布ノズル使用</b>															

薬害程度

薬害程度	基準
無	薬害は認められない
微	葉枯れ、茎葉の変色、生育抑制等が僅かに認められるが、収量に影響はない。
小	葉枯れ、茎葉の変色、生育抑制等の薬害症状が明らかに認められるが、回復し収量への影響がないもの。
中	葉枯れ、茎葉の変色、生育抑制等が著しく、収量への影響が大きいもの。
大	枯死又は生育停止、回復の見込みのないもの。

総合評価、判定は  
記入不要

散布水量を  
明記する

**\* 注意 \***  
斜線部分は印刷されません。  
書き込まないで下さい。  
縦罫線は、ずらさないで下さい。

薬剤名	試験圃場所名	試験条件	調査結果要約										判定	所見	
			使用量 200倍 <10L/a>	定植時調査					定植後14日調査(7/23)						
DEF-456液	○県内圃場 ○圃場 ○試験圃場	作物(品種) ※※※(※※※)	無処理 仮植3日前 定植3日前 仮植3日前 + 定植3日前	茎長	葉数	葉幅	生重	乾物重	茎長	葉数	葉幅	生重	乾物重	○ △ △ △ ○	仮植3日前と定植3日前の2回処理で顕著な生育促進効果があり、実用化可能。 1回処理では生育促進傾向はあるものの、実用上は効果不十分、使用量の検討が必要。
		土壤条件 洪積壇壤土		11.7	4.9	6.5	7.32	0.82	17.2	7.6	11.6	28.96	2.72		
		栽培法・作型 露地移植		12.2	5.3	6.9	7.99	0.87	17.6	8.1	12.3	35.62	3.30		
		播種期 播種 H**/5/30 仮植 H**/6/21		12.0	5.5	6.8	7.56	0.70	17.3	8.4	12.2	35.03	3.33		
		定植期 定 H**/ / 9		12.0	5.5	6.9	7.51	0.88	18.1	8.8	12.7	38.90	3.85		
		処理方法・処理時期 育苗期 茎葉処理 仮植3日前(6/18)、定植3日前(7/6)													

\* 注意 \*

斜線部分は印刷されません。  
書き込まないで下さい。

縦罫線は、ずらさないで下さい。

実用性の判定

○	実用性有りと判断されるもの
△	問題点があり、さらに検討が必要なもの
×	実用性がないと考えられるもの
-	気象条件等により判断できないもの